

熊谷秀平氏ノ筆ニシテ是又宜シ。此計画ニ係ル重立俳士、里篁・子行・菅菰・英美其外何レモ発起者タリ。且石見立及運搬ヨリ建設ニ到リテハ都テ成田氏鬼清ト申俠客ノ尽力ニ因ル所ナリ」とし、当日は、「一 当日開眼式挙行ノ際ニハ代官衆下役其他官所詰一統検断宿老小吏共羽織袴着用参列海中寺二十一世随誉和尚導師タリ赤飯煎ゞ其他取肴重内ニテ終日饗応終ニ英美子薄茶ヲ献シ見物ノ男女集ルモノ無量何レモ赤飯接待為シ愛宕山ノ賑ヒ言ハンハカリナシ記念トシテ古松若干桜千本ヲ植付ケタリ委細ノ記録鶴巢ニ伝ハル 一 猶袋町出入口左右ニハ芝居見セ物等豊楽有之文化文政ノ余沢思ヒ知ルヘシ」と記されています。

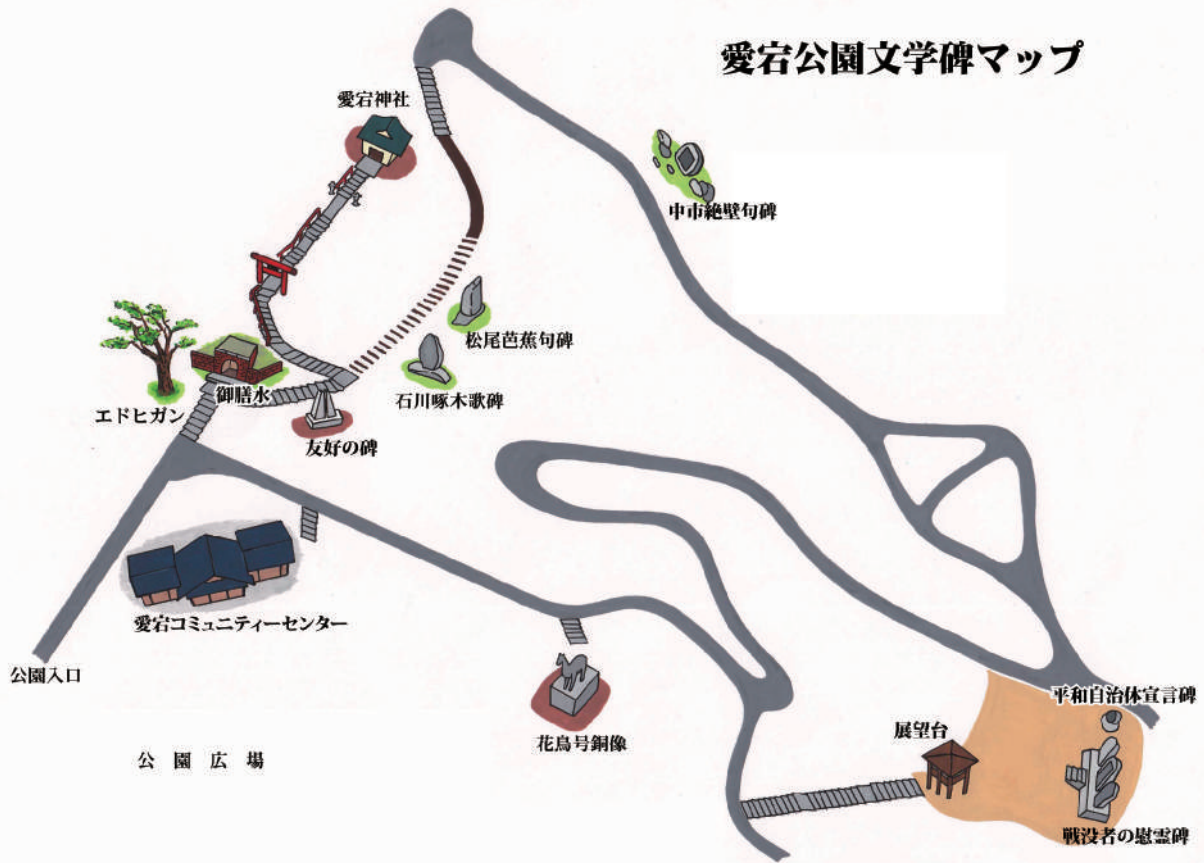
この碑の下の平坦に切り開かれた所には、明治時代の歌人である石川啄木の歌碑が、桜や青森ひば・紅葉などの木々に囲まれて、町を見おろしています。

潮かをる北の浜辺の
砂山のかの浜薔薇や
今年も咲けるや

この和歌は、歌集『一握の砂』の中の「忘れがたき人人」の部に掲載されています。

啄木は野辺地を二度訪れています。

愛宕公園文学碑マップ



石川啄木 歌碑